

久留米市地場企業景況調査レポート(平成20年4月～6月期調査分)

<調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

<調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

<調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

<DI値とは>

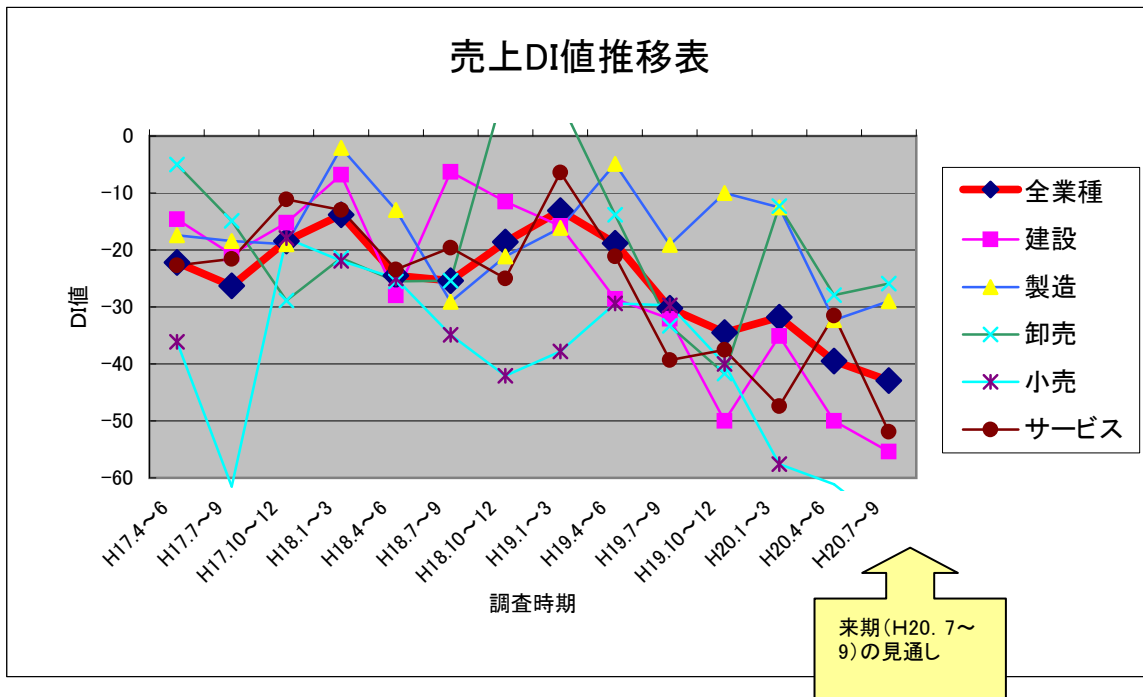
DI(ディーアイ。Diffusion Index: 景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

<平成20年4月～6月期調査分回収結果>

業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	286	47.7%
建設業	120	62	51.7%
製造業	120	66	55.0%
卸売業	120	64	53.3%
小売業	120	38	31.7%
サービス業	120	56	46.7%

売上DI値推移表

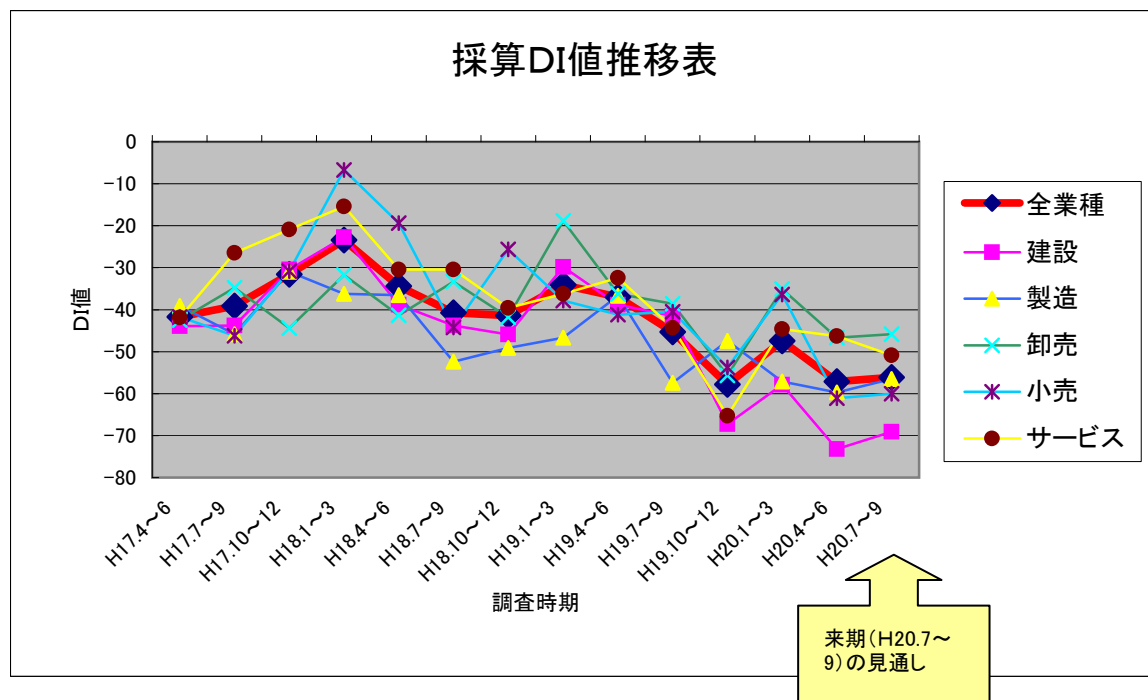


今期(H20. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で売上面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は55社(前期比4社減)、「減少した」と回答した企業は67社(前期比73社減)、「横ばいである」と答えた企業は152社(前期比80社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は二期ぶりに拡大して▲39. 5となり、前期比で7. 7ポイント悪化した。

業種別のDI値では、建設業▲50. 0(前期比14. 9P悪化)、製造業▲32. 3(前期比19. 8P悪化)、卸売業▲27. 9(前期比15. 6P悪化)、小売業▲61. 1(前期比3. 5P悪化)、サービス業▲31. 5(前期比15. 9P好転)となった。

来期(H20. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲42. 9と、3. 4ポイント悪化する見込み。

採算DI値推移表

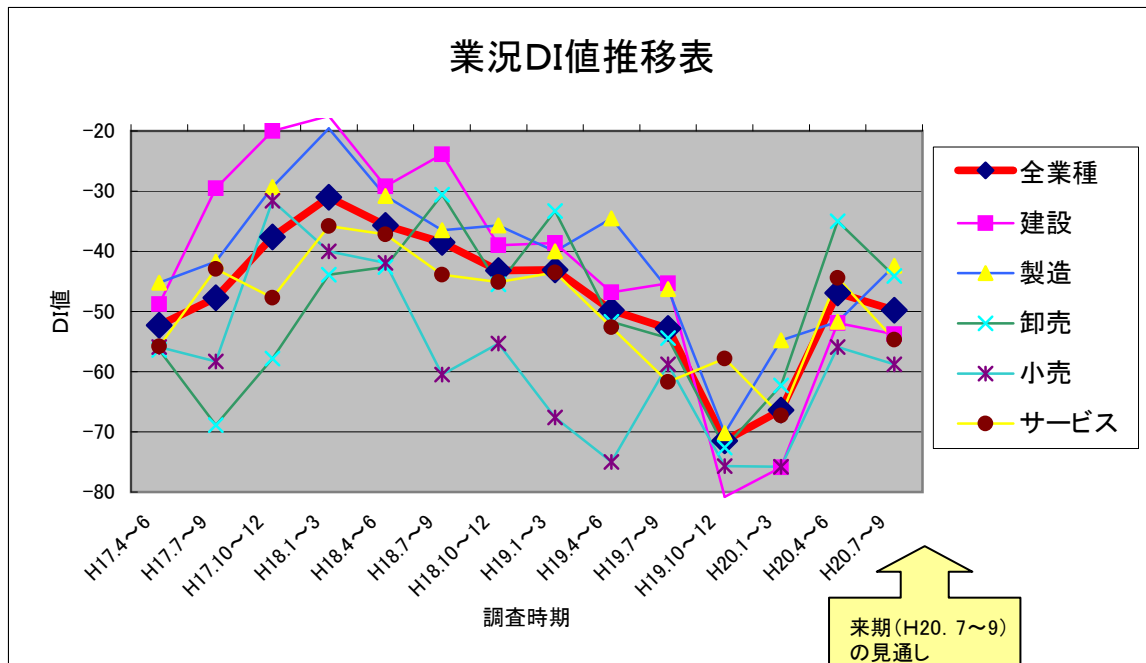


今期(H20. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で採算面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は30社(前期比11社増)、「悪化した」と回答した企業は170社(前期比54社増)、「横ばいである」と答えた企業は81社(前期比1社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は二期ぶりに拡大して▲57. 1となり、前期比で9. 7ポイント悪化した。

業種別のDI値では、建設業▲73. 2(前期比15. 3P悪化)、製造業▲59. 7(前期比2. 6P悪化)、卸売業▲35. 1(前期比11. 6P悪化)、小売業▲61. 1(前期比24. 7P悪化)、サービス業▲46. 3(前期比1. 7P悪化)となった。

来期(H20. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲56. 1と、1. 0ポイント好転する見込み。

業況DI値推移表

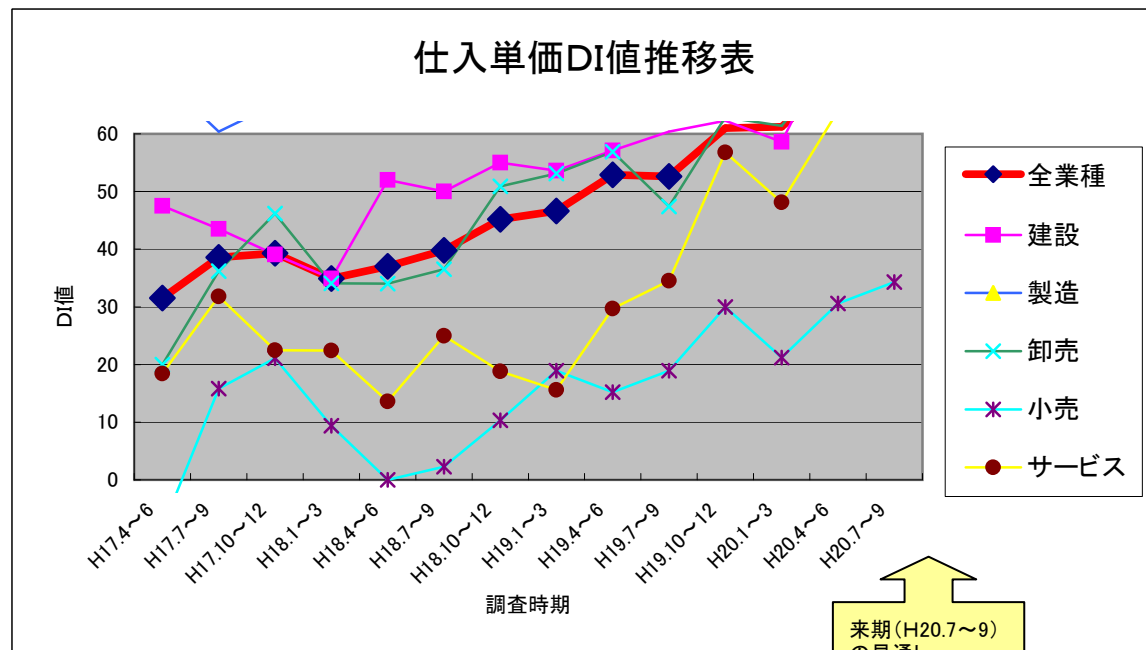


今期(H20. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で業況面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は16社(前期比9社増)、「悪化した」と回答した企業は139社(前期比44社減)、「横ばいである」と答えた企業は107社(前期比35社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は二期連続で縮小して▲46. 9となり、前期比で19. 5ポイント好転した。

業種別のDI値では、建設業▲51. 9(前期比24. 0P好転)、製造業▲51. 7(前期比3. 1P好転)、卸売業▲35. 0(前期比28. 2P好転)、小売業▲55. 9(前期比19. 9P好転)、サービス業▲44. 4(前期比15. 9P好転)となった。

来期(H20. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲49. 8と、2. 9ポイント悪化する見込み。

仕入単価DI値推移表

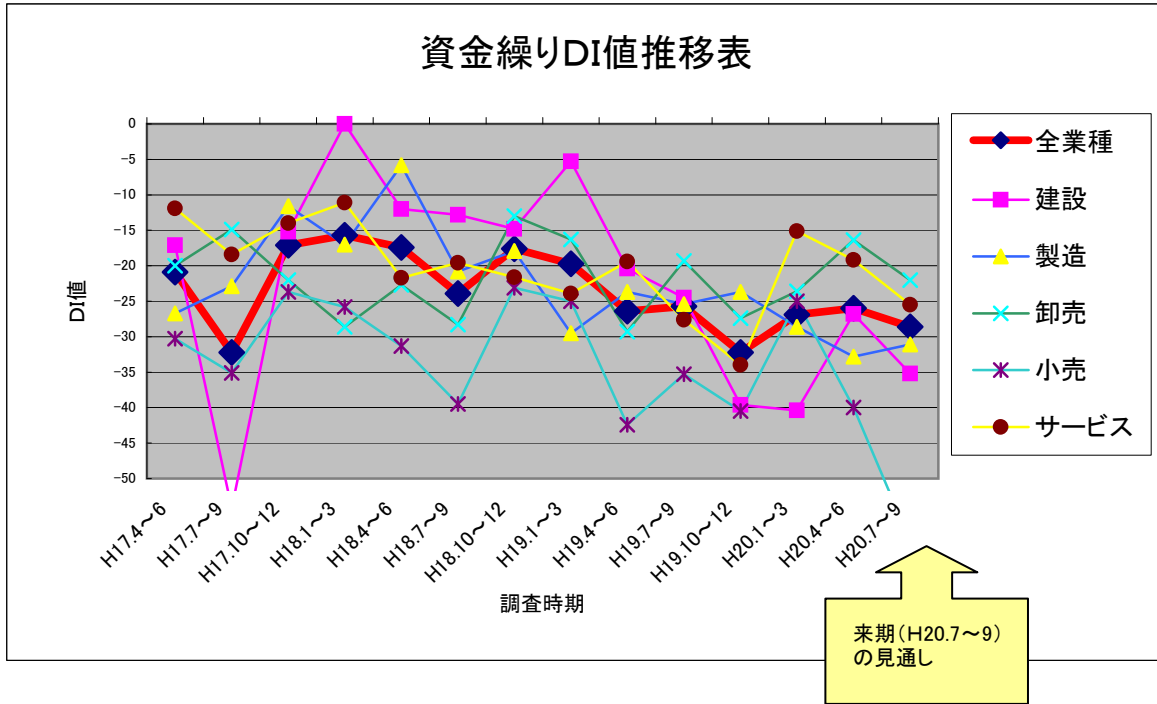


今期(H20. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で仕入単価面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は173社(前期比同)、「低下した」と回答した企業は12社(前期比3社減)、「横ばいである」と答えた企業は78社(前期比7社増)であった。DI値を見ると、3期連続で拡大して69. 7となり、前期比で8. 5ポイント悪化した。

業種別のDI値では、建設業78. 2(前期比19. 6P悪化)、製造業85. 5(前期比9. 7P好転)、卸売業73. 8(前期比12. 4P悪化)、小売業30. 6(前期比9. 4P悪化)、サービス業64. 0(前期比15. 9P悪化)となった。

来期(H20. 7~9)の見通しでは全業種DI値は70. 3と、0. 6ポイント悪化する見込み。

資金繰りDI値推移表

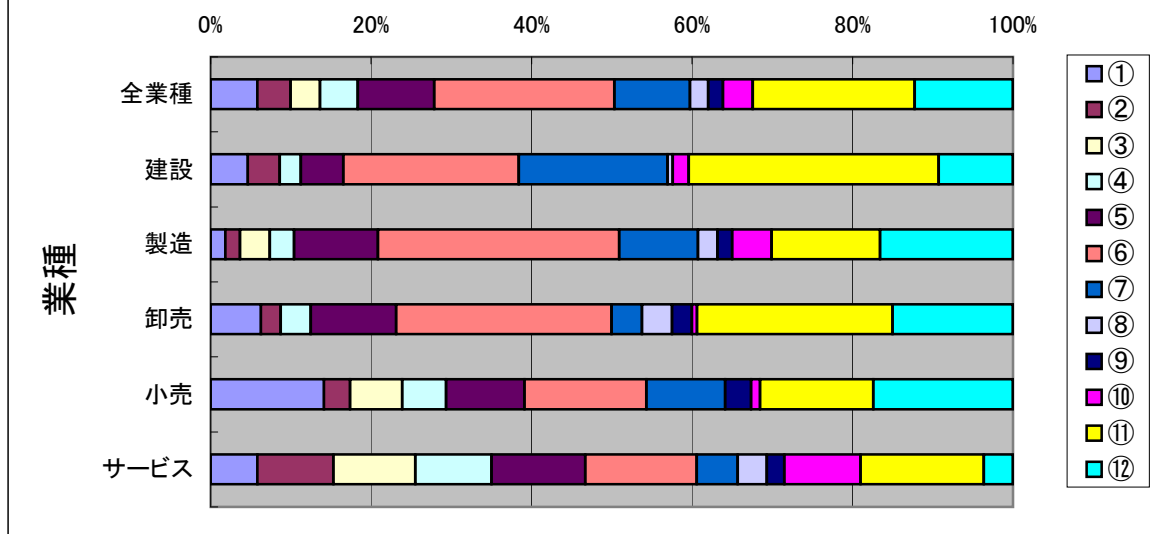


今期(H20. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で資金繰り面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は13社(前期比1社減)、「悪化した」と回答した企業は82社(前期比2社減)、「横ばいである」と答えた企業は170社(前期比8社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期連続で縮小して▲26.0となり、前期比で0.9ポイント好転した。

業種別のDI値では、建設業▲26.8(前期比13.6P好転)、製造業▲32.8(前期比4.2P悪化)、卸売業▲16.4(前期比7.2P好転)、小売業▲40.0(前期比15.0P悪化)、サービス業▲19.2(前期比4.1P悪化)となった。

来期(H20. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲25.5と、0.5ポイント好転する見込み。

経営上の問題点(複数回答可)



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他
 今期(H20. 4~6)の経営上の悩みとしては、「仕入単価の上昇(22. 5%)」「需要の停滞(20. 2%)」を指摘する声が多く寄せられている。

特に、建設業での「需要の停滞(31. 1%)」、製造業の「原材料仕入単価の上昇(30. 1%)」、卸売業の「仕入単価の上昇(26. 9%)」、小売業の「大型店・中型店の進出による競争の激化(14. 1%)」、サービス業の「需要の停滞(15. 3%)」に意見が集中した。

<事業所から寄せられた主なコメント>

- 「地場(筑後地域)での仕事が減り、福岡や北九州等遠方へ出ることが多くなり経費が増大している」(土木建築サービス業)
- 「今期の売上額は増加しているが、仕入単価も上昇しているため、収支は横ばいである」(一般土木建築工事業)
- 「ガソリン価格、原材料価格が上昇する一方で、請負単価は低いいため採算が取れない」(電気工事業)
- 「住宅建設が減少気味で、請負も減ってきているため、今後は厳しい状況」(木造建築を除く建築工事業)
- 「官公・民間需要が停滞し、売上が伸び悩んでいる」(電気工事業)
- 「原料穀物価格が上昇しており売上がなかなか伸びない」(精穀・製粉業)
- 「受注が増えてきているので、来期は採算も好転しそう。」(その他の電気機械器具製造業)
- 「原材料価格、経費が上昇しているが、販売単価に転嫁できず採算が合わない」(建具製造業)
- 「熟練技術者の確保が年々難しくなっている」(他に分類されないその他の製造業)
- 「店舗が狭隘・老朽化しているが、設備投資を行えない」(他に分類されない卸売業)
- 「今期の売上額は増加しているが、今後はどうなるか不安である」(他に分類されない卸売業)
- 「小売店での商品値上げにより在庫が増えている」(食料・飲料卸売業)
- 「銀行からの借入が今後厳しくなりそう」(一般機械器具卸売業)
- 「ほぼ全ての物価上昇により、経費増大につながり利益が出にくくなっている」(他に分類されない卸売業)
- 「今期は採算が好転し、来期は設備投資を行う予定である」(娯楽用品・楽器小売業)
- 「売上額が増加し、業況も好転している」(衣服・身の回りの品小売業)
- 「薬事法改正により以前に比べ利益率が低下している」(医薬品・化粧品小売業)
- 「需要が停滞し、今後の消費者ニーズの対応が困難である」(各種商品小売業)
- 「ガソリン価格の急上昇に比例して利用客数が減少しており、業界内の競争も激化している」(駐車場業)
- 「原油高がいつまで続くか不安」(ソフトウェア業)
- 「今期の売上は増加したが、全体的に需要が停滞している」(産業廃棄物処理業)
- 「原油高により石油製品が値上がりし、苦戦している」(クリーニング業)
- 「ガソリンを始め多くの物価が上昇しているため、売上が伸び悩んでいる」(他に分類されない小売業)